

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 4 月 11 日 (2013.4.11)

【公開番号】特開 2011-212289 (P2011-212289A)
 【公開日】平成 23 年 10 月 27 日 (2011.10.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-043
 【出願番号】特願 2010-84215 (P2010-84215)
 【国際特許分類】

A 6 1 F 13/496 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 U

【手続補正書】
 【提出日】平成 25 年 2 月 27 日 (2013.2.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 9】

本発明の実施態様の一つとして、前記クロッチ本体が前記クロッチ域から前記前後ウエスト域へ延びる一対のサイド弾性部を有し、前記着用物品の着用状態において、前記弾性ウエストパネルがウエスト回り方向に伸長されることによって、前記一対のサイド弾性部どうしの離間寸法が大きくなる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 1】

本発明の他の実施態様の一つとして、前記分離部位が、前記縦方向へ延びるスリットである。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 2】

前ウエストパネル 16 は、肌対向面に位置する第 1 内面シート 25 と、非肌対向面に位置する第 1 外面シート 26 とを有する。第 1 内面シート 25 と第 1 外面シート 26 とは、質量が $15 \sim 30 \text{ g/m}^2$ の不透液性の SMS (スパンボンド・メルトブローン・スパンボンド) 繊維不織布またはスパンボンド繊維不織布、若しくは、プラスチックシートやそれらのラミネートシートから形成されている。両シート 25, 26 は、少なくともいずれか一方のシートの内面に塗布されたホットメルト接着剤 (図示せず) を介して接合されている。また、第 1 内面シート 25 と第 1 外面シート 26 との間には、横方向 X に延びる複数条のストランド状又はストリング状からなる前ウエスト弾性要素 27 が、ホットメルト接着剤 (図示せず) を介して横方向 X において収縮可能に配設されており、前ウエストパネル 16 は、少なくとも横方向 X において弾性化されている。なお、第 1 内面シート 25 と第 1 外面シート 26 とは、前ウエスト弾性要素 27 を構成する各弾性要素に塗布したホ

ットメルト接着剤を介してのみ互いに接合されていてもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

後ウエストパネル 17 は、肌対向面に位置する第 2 内面シート 29 と、非肌対向面に位置する第 2 外面シート 30 とを有する。第 2 内面シート 29 と第 2 外面シート 30 とは、質量が $10 \sim 30 \text{ g/m}^2$ の不透液性の S M S 繊維不織布またはスパンボンド繊維不織布、若しくは、プラスチックシートやそれらのラミネートシートから形成されている。両シート 29, 30 は、少なくともいずれか一方のシートの内面に塗布されたホットメルト接着剤（図示せず）を介して接合されている。また、第 2 内面シート 29 と第 2 外面シート 30 との間には、横方向 X に延びる複数条のストランド状又はストリング状からなる後ウエスト弾性要素 31 が、ホットメルト接着剤（図示せず）を介して横方向 X において収縮可能に配設されており、後ウエストパネル 17 は、少なくとも横方向 X において弾性化されている。なお、第 2 内面シート 29 と第 2 外面シート 30 とは、後ウエスト弾性要素 31 を構成する各弾性要素に塗布したホットメルト接着剤を介してのみ互いに接合されていてもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

クロッチ本体 12 は、略矩形状であって、前ウエストパネル 16 の非肌対向面に取り付けられた前端部 35 と、後ウエストパネル 17 の非肌対向面に取り付けられた後端部 36 と、前後端部 35, 36 間において縦方向 Y へ延びる中間部 37 と、不透液性の内外面クロッチシート 38, 39 と、内面クロッチシート 38 の肌対向面に配置された吸液性構造体 40 とを有する。内外面クロッチシート 38, 39 は、両シート 38, 39 のうちのいずれか一方のシートの内面に塗布されたホットメルト接着剤（図示せず）を介して互いに接合されており、それらの両側部は、内方へ折り曲げられ、吸液性構造体 40 の内面において縦方向 Y へ延びる一対のサイド弾性部 41 が形成されている。吸液性構造体 40 は、高吸収性ポリマー粒子とフラッフパルプとの混合または高吸収性ポリマー粒子のみから形成された、前記各シートに比して剛性が高い半剛性の吸収性コアを透液性シートで被包することによって形成されている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

図 5 (a) に示すとおり、後ウエストパネル 17 は、横方向 X へ延びる複数条の後ウエスト弾性要素 31 が収縮可能に配設されているので、横方向 X に弾性化されている。図 5 (b) に示すとおり、おむつ 10 の着用状態において、弾性ウエストパネル 11 がウエスト回り方向に伸長されたとき、すなわち、後ウエストパネル 17 が横方向 X に伸長された状態では、後ウエストパネル 17 の両側縁はサイドシール部 20 によって固定されているので、サイドシール部 20 と分離部位 19 との間に位置する後ウエスト弾性要素 31 が伸長されることによって、分離部位 19 が横方向 X へ広がって略三角形の開口が形成される。なお、図示していないが、分離部位 19 の両側において横方向 X に延びる複数条の後ウ

エスト弾性要素 3 1 は、分離部位 1 9 近傍において固定せず、該非固定要素を切断してカットバックさせることによって配設してもよい。